

---

宮城県石巻エリアを舞台とした

# Reborn-Art Festival

リボーンアート・フェスティバル

開催がもたらした地域経済への影響

2018年6月



株式会社日本政策投資銀行

東北支店

---

## はじめに

2017年夏。

Reborn-Art Festival 2017 と題された新しい祭りが、51 日間にわたって開催された。

その舞台に選ばれたのは、宮城県石巻エリア。

ご存じのとおり、東日本大震災により甚大な被害を受けた、被災地である。

Reborn-Art Festival 2017 とは「アート・音楽・食の総合」であり、復興状況を発信する役割をも担った、復興の新しい形かもしれない。

DBJ は、被災地において開催された Reborn-Art Festival 2017 がもたらした影響等を調査するべく、まずは、そのコンセプトや開催概要を紹介し、地域経済への影響をはじめとした成果や課題を分析した。

“Reborn-Art Festival とは、「人が生きる術」を取り戻すための祭り”(事業関係者談) である。

今年の TRANSIT! Reborn-Art 2018 を経て、2019 年には本祭が予定されているが、その開催や地域経済活性化に向けた各種の取り組みに、本レポートの分析手法や結果を活かしていただければ幸いである。

### <Reborn-Art Festival 2017 開催経緯>

2015年7月7日、石巻市と ap bank<sup>(注)</sup> が設立発起人となり「Reborn-Art Festival 実行委員会」発足総会が宮城県庁で行われ、「Reborn-Art Festival」を2017年夏に開催することが決定された。この実行委員会の委員長に、石巻市長とともに ap bank 代表理事である小林武史氏が就任し、制作統括を行う制作委員会の委員長も兼任することとなった。復興支援金を生かす手段を検討する中で、2013年頃から「Reborn-Art Festival」のアイデアを宮城県や石巻市を始めとする各自治体、現地の民間団体や他の復興支援団体、アーティスト、各地域の住民等との話し合いを経て開催に至ったものであり、この場所がもつ魅力を再発見し、アートや食、音楽のある祭りをつくり出すことで、当該地域の10年後、20年後の未来を形づくるきっかけが生まれることを目指している。

(注) ap bank : 環境プロジェクトなどへの融資をはじめ、持続可能な社会を創るための様々な活動を行う組織である。音楽プロデューサーの小林武史氏と、Mr.Children の櫻井和寿氏に、坂本龍一氏を加えた3名が拠出した資金をもとに、2003年に設立された。ap bank の「ap」は「Artists' Power」の AP、及び「Alternative Power」の AP を意味している。なお、2011.3.11以降、ap bank が行った音楽活動等で得た資金は全て東北復興支援のために使われており、ap bank が行う東北復興支援活動である ap bank Fund for Japan は、現地のニーズに寄り添い、現地で発生している課題を解決するため、人材支援活動や融資、イベント等の活動を続けている。Reborn-Art Festival 2017 対しても ap bank Fund for Japan の復興支援金が拠出された。

(出典) ap bank HP、ap bank Fund for Japan HP より一部改変

# 目次

はじめに.....	i
目次 .....	ii
第1章 Reborn-Art Festival とは .....	1
1-1 Reborn-Art = 「人が生きる術」 .....	1
1-2 「人が生きる術」とは .....	1
1-3 「人が生きる術」のを見つけ方.....	2
1-4 「RAF を生かす」 .....	2
第2章 RAF2017 の開催概要 .....	3
2-1 アート .....	3
2-2 音楽 .....	4
2-3 食 .....	5
2-4 その他 .....	6
第3章 RAF2017 開催に伴う地域経済への影響 .....	8
第4章 RAF2017 開催による成果と課題.....	9
4-1 「生活の技」(例：食や住や経済など) .....	9
4-2 「美の技」(例：アートや音楽やデザイン) .....	9
4-3 「叡智の技」(例：地域の伝統と生活) .....	10
第5章 次回 RAF 開催概要.....	11

## 第1章 Reborn-Art Festival とは

Reborn-Art Festival (リボーンアート・フェスティバル。以下、「RAF」(ラフ。))とは、宮城県の石巻エリアを中心として「アート」「音楽」「食」を楽しむことができる新しい祭り、「アート・音楽・食の総合祭」のことである。

東日本大震災(以下、「震災」。)の最大被災地を会場として開催されたRAFは、震災からの復興状況を発信する役割をも担うこととなったため、ご存じの方も多いのではないかと思います。



RAFは、これまでに2度、開催されている。

1度目は、本祭のプレイベントとして2016年に開催された、3日間のコンサート「Reborn-Art Festival x ap bank fes 2016」で、石巻港雲雀野地区が会場となった。

2度目は2017年に開催された本祭「Reborn-Art Festival 2017」(以下、「RAF2017」。)である。プレイベントと同様に3日間のコンサートも開催されたが、RAF2017全体としての会期は51日間の長期にわたり、その会場も、石巻市(牡鹿半島、市内中心部)や松島湾(塩竈市、東松島市、松島町)、女川町などの広範囲に展開された。

これら2度のRAFは、会期や会場の規模等こそ異なるが、いずれも共通コンセプトに基づいて開催されている。そこで、まずは、RAFのコンセプトを紹介したい。

### 1-1 Reborn-Art = 「人が生きる術」

**RAFとは、「人が生きる術」を取り戻すために、石巻エリアで開催された、新しい祭り**である。

RAFのテーマの一つでもある「アート(Art)」には、語源的に「生きる術(Ars)」という意味がある。それを、蘇らせる(Reborn)ための祭り(Festival)として開催されたのがReborn-Art Festival、即ちRAFである。その根底には、「人が生きる術」を失いかけていることを震災から教わった今、最も必要とされているのは「人が生きる術」を蘇らせること(「Reborn-Art」)ではないか、との認識がある。そして、様々な「Reborn-Art」を発見、もしくは再発見する場として、震災による津波の傷跡と共に多くの自然が残されている地域こそが相応しいとの考えから、石巻エリアがRAFの舞台に選ばれたのである。

### 1-2 「人が生きる術」とは

**「人が生きる術」とは、何か。**

思想家・人類学者の中沢新一氏によると、以下の3つの技が挙げられている。

- ✓ 食や住や経済などの「生活の技」
- ✓ アートや音楽やデザインの「美の技」
- ✓ 地域の伝統と生活の「叡智の技」

生活の技

美の技

叡智の技

これらが発見、もしくは再発見するためには、RAFのような新しい祭りの開催が必要である、と考えられた。

そして、もし、これらを地域の中に見つけることができたとすれば、それこそが**地域の価値であり、地域の魅力**の源泉ではないか。また、そのような**地域資源を活かすこと**が、「人が生きる術」につながるのではないだろうか。

### 1-3 「人が生きる術」の見つけ方

RAFでは、「アート」「音楽」「食」をテーマとして様々なプロジェクトが展開されている。例えば、「アート」や「音楽」は「人が生きる術」のうち「美の技」に、「食」は「生活の技」に呼応すること等から、RAF が展開する各プロジェクトとの関わりの中で、「人が生きる術」となる地域の価値を見つけることができるかも知れない。また、震災による津波の傷跡や多くの自然が残された地域における伝統や生活に秘められた「叡智の技」に、驚くことがあるかも知れない。そして、そのような中で、**地域資源を見つけて活かそうとする自らの主体性**に、気づくこともあるのではないだろうか。その全てに、「人が生きる術」を見つけることができるのである。

### 1-4 「RAF を生かす」

以上より、RAF が、そのコンセプトとして「人が生きる術」を掲げていること、そして、それが地域資源に深く関係していることを、ご理解いただけたかと思う。そして、お気づきのとおり、RAF のコンセプトを石巻エリアで実現することが、被災地再生を推し進める可能性があるのだ。

であれば、RAF を生かし、いま再び地域の魅力を創出し、地域の内外から共感を得ながら、その魅力を更に向上させることが望まれよう。そのためには、下表のような行動が求められるのではないだろうか。

目的	求められる行動
創出	地域資源を見つけ、有効に活用するための独自の技術等を開発し、地域産業を活性化する。
共感	地域を訪れる人に対し、地域に関わる様々な関係者が、一体となって、もてなす。
向上	地域に関わる様々な関係者間で、情報共有や理解醸成、課題解決に向けた継続的な活動を行う。

そして、それらに引き続き、以下のような好循環が生まれる可能性も、考えられる。

- ✓ 地域の魅力が向上することで地域を訪れる人が増え、更なる魅力の創出等により、地域に住む人が増える。
- ✓ 地域に関わりを持つ人が増え、その人たちが、更に、新たな地域資源や、その新しい活用方法を見つける。

「RAF を生かす」。

それにより、地域の魅力を見つけ、磨き上げ、地域が稼ぐ力を取り戻す契機とすることが、できるかも知れない。

次章からは、2017 年に開催された本祭「RAF2017」に焦点を絞り、「人が生きる術」の発見、もしくは再発見につながる、主なプロジェクト等を見ていきたい。



(出典) RAF2017HP



## 第2章 RAF2017 の開催概要

前章のとおり、RAF2017では「人が生きる術」をコンセプトに、「アート」「音楽」「食」をテーマとした、様々なプロジェクトが展開された。ここでは、その主なものを、テーマ別に紹介する。

### 美の技

#### 2-1 アート

RAF2017には延べ20万人を超える人々が訪れたが、その大きな目的の一つにアート作品の鑑賞があげられる。アート作品は、石巻市街地中心から牡鹿半島先端・鮎川エリアにかけての32箇所と、荻浜小学校の、計33箇所に展示された。事業者提供情報によると、特に多くの来場者を集めたアート作品は、名和晃平氏による「White Deer (Oshika)」、草間彌生氏による「真夜中に咲く花」であったとのことである。いずれの作品も、石巻市街地中心エリアではなく牡鹿半島に展示されたことから、来場者の周遊範囲の拡大に大きく貢献したことが推測される。



(出典) RAF2017HP

## 2-2 音楽

RAF2017では、以下に紹介する音楽企画も、数多くの来場者を誘った。

### 1) 51日間音楽企画

RAF2017開催期間中、「51日間、毎日どこかで音楽が鳴っているプログラム」として、石巻市・牡鹿半島エリアと、塩竈市・松島町などの提携会場も含め、様々な会場で一期一会となる音楽イベントが開催された。シンプルなライブセットでその場の空気や来場者と反応し合いながら、ベテランから若手までの幅広いミュージシャンによって音楽が提供された本企画は、事前からチケット販売をするライブがある一方で、告知なくゲリラ的に行われるフリーライブがある等、その開催形式にも趣向が凝らされた。

本企画では、約8,000人の来場者が、下図の●（ライブ会場）を訪れた。



### 2) Reborn-Art Festival 2017 × ap bank fes

RAF2017においても、2016年のプレイイベントと同じく、ap bank<sup>(注)</sup>が主体となった3日間のコンサート(Reborn-Art Festival 2017 × ap bank fes)が、2017年7月28日から30日にかけて開催された。その会場は、国営みちのく杜の湖畔公園(宮城県柴田郡川崎町)に設営され、来場者数は延べ35,000人を数えた。



(注) ap bank は、環境プロジェクトなどへの融資をはじめ、持続可能な社会を創るための様々な活動を行う組織である。音楽プロデューサーの小林武史氏と、Mr.Childrenの櫻井和寿氏に、坂本龍一氏を加えた3名が拠出した資金をもとに、2003年に設立された。ap bankの「ap」は「Artists' Power」のAP、及び「Alternative Power」のAPを意味している。なお、2011.3.11以降、ap bankが行った音楽活動等で得た資金は全て東北復興支援のために使われており、ap bankが行う東北復興支援活動であるap bank Fund for Japanは、現地のニーズに寄り添い、現地で発生している課題を解決するため、人材支援活動や融資、イベント等の活動を続けている。  
(出典) ap bank HP、ap bank Fund for Japan HP より一部改変



## 2-3 食

食に関する企画としては、特に牡鹿ビレッジにおける取組を紹介したい。

牡鹿ビレッジは、RAFのコンセプト「生きる術」を体現する場として、牡鹿半島の荻浜につくられた施設である。人が出会い、新しいなりわいが生まれ、様々な循環が生まれる場所を地元住民と共につくっていききたいという思いから始まった、拠点づくりプロジェクトであり、牡鹿半島の海と山に寄り添い、地域の価値を再発見し、活かし・伝えていくための場づくりを目指している。

牡鹿ビレッジには、牡鹿半島の案内所、浜のお母さんたちによる食堂、石巻・東北の食材を使ったシェフの料理を楽しめるレストラン等の整備が企画された。以下は、その模型（イメージ）である。



### 1) Reborn-Art DINING

当初「浜のレストラン（仮）」として企画された「Reborn-Art DINING」では、フードディレクター目黒浩敬氏の呼びかけで、週末を中心に、全国から多数の有名シェフが駆けつけ、まさに「一期一会」（日替わり）の料理が提供された。

平日には石巻の魚介や鹿などの豊かな食材を活かしたコース（2,900円〜）が提供された他、毎週月曜日は地元シェフが牡鹿の食材を使い、思い思いのメニューを提案するポップアップレストラン「みちのく DINING」が開催された。

これらの取組により、Reborn-Art DINING への来場者は、会期中に約 2,000 人（テイクアウト除く）を数え、売上は 1,000 万円を超えるものとなった。



### 2) はまさいさい

「牡鹿半島の明るく元気な浜のお母さん達の、浜の営みを感じてもらえる食堂。」をコンセプトにオープンした食堂が、「はまさいさい」である。新鮮な魚介類や地元の野菜を使った定食や丼、カキマカレー等が 1,000~1,500 円（ランチメニュー）で提供された。食材を全面的に支援した東北の若手漁師集団「Fisherman Japan」は、今後も RAF と共同で「はまさいさい」を運営する。

RAF2017 の会期中には約 6,000 人が来場し、売上は 1,000 万円弱（テイクアウト含む）にのぼった。





## 2-4 その他

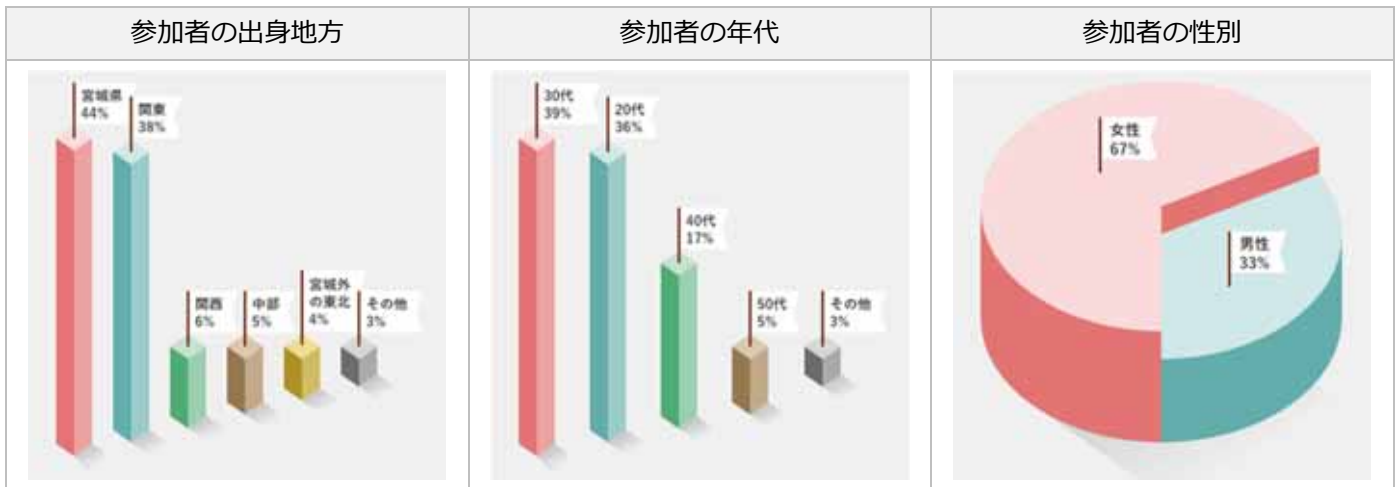
ここでは、地域との関係性を意識した取組として、以下の2つを取り上げる。

### 1) こじか隊

こじか隊とは、作品制作や運営等を通して、RAFと一緒に創り上げるボランティアサポーターのことである。

こじか隊に登録し、その活動に参加する場合は、Reborn-Art House（こじか隊の活動・宿泊拠点）を利用することが可能で、宿泊利用時には地元食材等を使った朝食と夕食の提供を受けることができた。また、こじか隊は、昼食として地域のパートナーショップ<sup>(注)</sup>の協力により弁当の提供を受けることができたため、地域の食の魅力を体験しながら、アートや音楽等の企画に寄り添うことができた。いわば、RAFのファン醸成の場となったのだ。

RAF2017 会期中の51日間において、こじか隊への参加人数は延べ1,300人弱に上った。その属性は、以下のとおり公表されており、広範囲から幅広い年代の人々に参加いただいたことが分かる。



(注) パートナーショップとは、RAFのPRやRAF参加者へのオリジナルサービスの提供を担う一方、RAFの印刷物やHPへの店名等の無料掲載やチラシやノベルティ等のRAF広報宣伝ツールの配布を受けることができる店舗で、石巻市・塩竈市・東松島市・松島町・女川町内を対象として募集された。RAF2017では約240店舗の登録があった。

(出典) RAF2017HP「こじか隊活動マニュアル」、「データで見るこじか隊」

### 2) 桃浦ビレッジ

桃浦（もものうら）ビレッジは、平地が残る山裾部分に着目し、持続可能な場を集落に生み出すべく、かつて、段々畑として利用されていた里山を活用するプロジェクトにより、つくられた。手入れの行き届かない森を間伐し、漁村とその里山を持続させ、身の回りの資源と直接的に関わりあって暮らしを組み立てていくことを学ぶ研修の場として整備され、管理棟である「メインハウス」と、定員約4名の宿泊棟「タイニーハウス」から成る。

その活用事例には、「タイニーハウス」の建設自体を森と浜をつなぐ場・学びの場とするためにサマースクールを実施する、といったもの等があり、まさに、人が人と出会い、人がありのままの自然に出会う場として、人々に愛されるビレッジの実現が目指されているのだ。



(出典) RAF2017HP

## <RAF2017 開催概要>

<b>名称</b>	Reborn-Art Festival 2017 (リボーンアート・フェスティバル 2017)
<b>日程</b>	2017年7月22日(土)～9月10日(日)
<b>会場</b>	宮城県石巻市(牡鹿半島、市内中心部) / 提携会場: 松島湾(塩竈市、東松島市、松島町)、女川町
<b>主催</b>	Reborn-Art Festival 実行委員会 / 一般社団法人 APバンク
<b>共催</b>	宮城県 / 石巻市 / 塩竈市 / 東松島市 / 松島町 / 女川町 / 株式会社河北新報社 / 東日本旅客鉄道株式会社 仙台支社 / ヤフー株式会社
<b>特別協力</b>	日本製紙株式会社
<b>協賛</b>	キリン株式会社 / 住友林業株式会社 / トヨタ自動車株式会社 / タニコー株式会社 / ポーズ合同会社 / 環境ステーション株式会社 / 三井不動産株式会社 / 院庄林業株式会社 / 株式会社エヌ・シー・エヌ / 株式会社日立システムズ / 東北電力株式会社 / 株式会社 乃村工藝社
<b>協力</b>	アース製薬株式会社 / 株式会社日本政策投資銀行
<b>後援</b>	ブリティッシュ・カウンシル / ドイツ連邦共和国大使館 / 在日フランス大使館 アンスティチュ・フランセ日本 / TBC 東北放送 / OX 仙台放送 / ミヤギテレビ / KHB 東日本放送 / 株式会社エフエム仙台 / 株式会社 J-WAVE / 株式会社 InterFM897
<b>名誉実行委員長</b>	村井 嘉浩(宮城県知事)
<b>実行委員長</b>	亀山 紘(石巻市長) / 小林 武史(一般社団法人 APバンク 代表理事)
<b>顧問</b>	佐藤 昭(塩竈市長) / 渥美 巖(東松島市長) / 櫻井 公一(松島町長) / 須田 善明(女川町長) / 北川 フラム(株式会社アートフロントギャラリー 代表取締役会長)
<b>委員</b>	浅野 亨(石巻商工会議所 会頭) / 一カ 雅彦(河北新報社 代表取締役社長) / 上野 満男(日本製紙株式会社 石巻工場 事務部長) / 尾池 守(石巻専修大学 学長) / 大場 尚文(公益社団法人宮城県芸術協会理事長) / 後藤 宗徳(一般社団法人石巻観光協会 会長) / 西條 允敏(石巻市文化協会 会長) / 齋藤 富嗣(鮎川港まちづくり協議会 会長) / 佐藤 寿彦(株式会社ジー・アイ・ピー 代表取締役) / 杉浦 太一(株式会社 CINRA 代表取締役) / 丹野 一雄(宮城県漁業協同組合 経営管理委員会 会長) / 中西 健夫(株式会社ディスクガレージ 代表取締役) / 根岸 吉太郎(東北芸術工科大学 学長) / 松木 茂(東日本旅客鉄道株式会社 執行役員 仙台支社長) / 宮坂 学(ヤフー株式会社 代表取締役社長) / 宮原 賢一(公益財団法人宮城県文化振興財団 理事長) / 矢内 廣(一般社団法人チームスマイル代表理事)
<b>事務局</b>	一般社団法人リボーンアート・フェスティバル
<b>事務局長</b>	松村 豪太(一般社団法人 ISHINOMAKI2.0 代表理事)
<b>副事務局長</b>	江良 慶介(一般社団法人 APバンク)
<b>制作委員長</b>	小林 武史(音楽家/一般社団法人 APバンク代表理事)
<b>委員</b>	中沢 新一(思想家・人類学者/明治大学野生の科学研究所所長) / 和多利 恵津子(ワタリウム美術館館長) / 和多利 浩一(ワタリウム美術館代表 CEO) / 岩井 俊二(映画監督/株式会社ロックウェルアイズ代表) / 江良 慶介(一般社団法人 APバンク)

(注) 1. RAF2017 に合わせて開催された Reborn-Art Festival 2017 x ap bank fes の会場は国営みちのく社の湖畔公園であり、以下の入場券が必要。

3日券	7月28日(金) / 29日(土) / 30日(日)	28,000円(税込)
2日券	① 7月28日(金) / 29日(土)	19,500円(税込)
	② 7月28日(金) / 30日(日)	19,500円(税込)
	③ 7月29日(土) / 30日(日)	19,500円(税込)
1日券	① 7月28日(金)	11,000円(税込)
	② 7月29日(土)	11,000円(税込)
	③ 7月30日(日)	11,000円(税込)

2. RAF2017 のアート作品や音楽ライブ(一部\*)の鑑賞、イベント(一部\*)への参加には、以下のパスポートの購入が必要。

当日料金	一般	リボーンアート・パスポート(2日間有効)	3,000円(税込)
		リボーンアート・パスポート 3日券	4,000円(税込)
	学生(注1、2) / シニア(65歳以上)	リボーンアート・パスポート(2日間有効)	2,000円(税込)
		リボーンアート・パスポート 3日券	3,000円(税込)
地元割引(注3)	リボーンアート・パスポート1日券	1,000円(税込)	

\*: パスポートの料金に含まれない有料の音楽ライブやイベントへの参加には、別途料金が必要。

### 第3章 RAF2017 開催に伴う地域経済への影響

本章では、「人が生きる術」の中で「生活の技」の一つとされている経済に関する発見を試みるべく、RAF2017 及び Reborn-Art Festival 2017 x ap bank fes の開催に伴う、宮城県内への経済波及効果を試算した。その結果、総額は約 22 億円となった。

#### 生活の技

#### <RAF2017 及び Reborn-Art Festival 2017 x ap bank fes による宮城県内への経済波及効果>

経済波及効果	直接効果	1次波及効果	2次波及効果
<b>21.75 億円</b>	13.44 億円	4.82 億円	3.49 億円

(出典) 株式会社日本政策投資銀行東北支店にて試算

直接効果：RAF2017 及び Reborn-Art Festival 2017 x ap bank fes への来場者数による県内消費額等から、財・サービスの調達を県外に頼らざるを得ないなど、県外に消費が流出する部分を控除したもの。  
 一次波及効果：直接効果に必要な中間投入がもたらす関連産業の生産波及金額。  
 二次波及効果：直接効果及び1次波及効果によって生じた雇用者所得が消費に回り、新たな需要となって誘発する消費財関連産業の生産波及金額。  
 経済波及効果：直接効果 + 1次波及効果 + 2次波及効果。

#### (主な前提条件等)

事業者提供情報や統計情報（宮城県観光統計概要）等を踏まえ、以下のとおり推計。

- 事業費：事業者提供情報より設定。
- 客数：事業者による公式発表情報<sup>(注)</sup>等のもとに、下表のとおり推計。

#### <客数>

	県内		県外		合計
	日帰り客数	宿泊客数	日帰り客数	宿泊客数	
RAF2017	19,709 人	3,247 人	405 人	3,081 人	26,443 人
Reborn-Art Festival x ap bank fes	19,299 人	3,179 人	397 人	3,017 人	25,893 人

(注) 事業者による公式発表情報

- ・RAF2017 及び Reborn-Art Festival 2017 x ap bank fes への延べ来場者数：約 26 万人（ただし、RAF2017 は作品展示場所等でのパスポート確認回数）
- ・RAF2017 への延べ来場者数：約 3 万 2 千人（ただし、無料来場者を含む）
- ・Reborn-Art Festival 2017 x ap bank fes への入場者数：約 3 万 5 千人（ただし、招待客を含む）
- ・こじか隊への参加人数：延べ 1,300 人弱（ただし、石巻市職員を含む）※経済波及効果試算には石巻市職員を含まない。

- 観光消費金額：統計情報等に基づき、1人当たりの消費単価を下表のとおり推計。

#### <観光消費金額>

	県内		県外	
	日帰り客	宿泊客	日帰り客	宿泊客
RAF2017	7.9 千円	36.1 千円	18.6 千円	66.8 千円
Reborn-Art Festival x ap bank fes	15.6 千円	48.9 千円	21.2 千円	84.4 千円

(出典) 株式会社日本政策投資銀行東北支店にて推計

- 経済波及効果：主な前提条件等を適用し、平成 25 年宮城県産業連関表（延長表）を用いて算出。

## 第4章 RAF2017 開催による成果と課題

ここまで見てきた RAF2017 のコンセプト等を踏まえ、本章では、その開催により得られた成果と課題を3つの技に結び付けて整理し、今後の開催を視野に入れた対応案を提示する。

### 4-1 「生活の技」(例：食や住や経済など)

#### 生活の技

#### 1) 成果

- ✓ RAF で提供した食の素材の大半を地元の食材としたこと等から、食に関する地域の魅力発信につながった。
- ✓ 地元への食材等の発注により、地域経済の活性化に寄与した。

#### 2) 課題

- ✓ RAF が運営する食提供施設が限られていたこと等により、来場者に十分な対応ができない場合があった。
- ✓ 地域産材(食材を含む)を活かした土産の用意(数量、種類)が充分ではなかった。

#### 対応案

- ❖ 地域経済の活性化を意識し、食材に限らず、地元から調達するモノやサービスを可能な限り増やす。
- ❖ 地域産材を活かした土産を開発・訴求し、現地体験のみに終わらない地域の魅力発信機会を創出する。
- ❖ RAF 運営施設以外の地元ショップも積極的に、RAF 来場者をもてなしたくなるような気運を高める。

### 4-2 「美の技」(例：アートや音楽やデザイン)

#### 美の技

#### 1) 成果

- ✓ アート作品や音楽イベントの鑑賞を目的とした多くの来場者を迎え、地域に賑わいをもたらすことができた。
- ✓ 来場者の足を石巻市街地のみ止めず、牡鹿半島にまで延ばす等、周遊範囲の拡大に貢献した。

#### 2) 課題

- ✓ アート作品が点在しすぎている・展示場所が分かりにくい・(悪天候のため)足元が悪いといった声があった。
- ✓ 音楽イベントのうち、Reborn-Art Festival 2017 x ap bank fes の開催地が石巻エリアではなかったことを残念に思う声があった。

#### 対応案

- ❖ アート作品等を、効率よく鑑賞できる配置や動線を検討し、分かりやすく提示する。
- ❖ 目的地まで誰もが迷わず辿り着けるよう、資材を作成・提供し、地元住民による協力・支援を得る。
- ❖ RAF 関連イベント会場は、可能な限り石巻エリアに集約し、一体感を持たせる。



(出典) RAF2017HP



### 4-3 「叡智の技」(例：地域の伝統と生活)

## 叡智の技

#### 1) 成果

- ✓ RAF との関わりを持った様々な関係者により、RAF や地域等に関する種々の課題が認識された。
- ✓ 地域資源を活用するための施設等が、RAF2017 の開催を契機に整備された。

#### 2) 課題

- ✓ 情報や資材等に不備不足があったため、来場者に対しても、地元住民間においても、RAF を題材とした会話や対応等が十分にできなかった。

#### 対応案

- ❖ RAF の様々な関係者により認識された種々の課題を共有し、議論する場を継続的に設ける。
- ❖ 課題解決に向けた活動・交流の拠点として、RAF2017 で整備された施設等を有効活用する。
- ❖ RAF を題材とした会話が、人と人との新しい関係を築く心地よいコミュニケーションとなるための方策（例：RAF に関する情報を可能な限り前広に地元住民と共有し、理解醸成を図る。パートナーショップ制度の改善を含め、地元ショップが来店客とのコミュニケーションに活用できるツールを作成する。等）を検討する。



(出典) RAF2017HP

## 第5章 次回 RAF 開催概要

最後に、次回の RAF 開催に関する情報を一部、紹介する。

### アートと音楽と食の総合祭「Reborn-Art Festival 2019」のプレイベント 「TRANSIT! Reborn-Art 2018」開催決定！

2018年夏、TRANSIT! Reborn-Art 2018 と題したプレイベントが、本祭 Reborn-Art Festival 2019 への乗り継ぎ（TRANSIT）役を担い、開催されることが決まった。概要は、下表を参照いただきたい。

その開催に先立ち、石巻商工会議所会頭が呼びかけ人となって、「Reborn-Art Festival 石巻実行委員会」が設立された。趣意書によると、RAF を機会に震災前よりも更に魅力的な石巻となるよう、より市民一丸となった官民連携のおもてなし体制の構築を図ることが目的とされている。その背景にあるのが、RAF2017 の開催により数多くの多様な人が訪れたことにより起きた、地域振興へ向けての大きなうねりだ。

皆様も是非、TRANSIT! Reborn-Art 2018 への参加を通じて、石巻が前に進もうとする姿と、その原動力たる希望、情熱、継続、絆、折れない心を感じ取ってもらえれば、幸いである。

#### <TRANSIT! Reborn-Art 2018 開催概要>

名称	TRANSIT! Reborn-Art 2018 (トランジット・リボーンアート 2018)	
日程	2018年8月4日(土)～9月2日(日) ※休日有り	
会場	宮城県 石巻市市街地・牡鹿半島エリア	
内容	アート	「White Deer (Oshika)」名和晃平氏
	食	「Reborn-Art DINING」(有名シェフによる日替わりレストラン) 「はまさいさい」(「浜のお母さん」たちによる食堂)
	音楽	「リボーン祭り」(会期：2018年9月2日、会場：中瀬公園)
<p>(地図) 国土地理院地図</p> <p>石巻駅</p> <p>リボーン祭り (9/2)</p> <p>いしのまき元気いちば</p> <p>White Deer (Oshika) (名和晃平氏)</p> <p>Reborn-Art DINING</p> <p>はまさいさい</p> <p>タイニーハウス</p> <p>桃浦ビレッジ</p> <p>牡鹿ビレッジ</p> <p>(2018年5月末日現在)</p>		

©Development Bank of Japan Inc.2018

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身のご判断でなされますようお願い致します。本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡下さい。著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず、『出所：日本政策投資銀行』と明記して下さい。

(お問い合わせ先)

(株)日本政策投資銀行 東北支店 企画調査課 池原 沙都実 電話 022-227-8182

